

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3291500035
法人名	株式会社 あゆみ
事業所名	グループホームあゆみの杜
所在地 (電話番号)	飯石郡飯南町頓原1070 (電 話) 0854-72-9373

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年3月18日

## 【情報提供票より】(21年 2月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	17 人	常勤	13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 3 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	準耐火木造	
	1 階建て	1 階 ~ 0 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		0 円	

### (4) 利用者の概要( 2月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	71 歳	最高	103 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯南病院、和田医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中国山地の山間部、主要国道から一步入ったところに位置するこのホームは、山林や田畑に囲まれ、自然を身近に感じることが出来る環境に立地している。何よりも、その人らしい暮らし方、その人の思いや意向の実現を目指しており、法人の方針「一人一人の人格を尊重し・・・」とある通り、利用者がそれぞれに生活している面が多く見てとれたとともに、そのさまざまな意思や希望に応える職員の姿が確認できるなど、利用者を第一に考えたケアが実践されている。併設する、小規模多機能ホームも含め、温泉やサロン事業の提供など、地域交流も積極的に行われており、ホームの特性を活かしたサービス提供がなされている。職員も、常に質の向上を目指すことを念頭に従事しており、ヒアリングからも、質の高さ、仕事への熱意が強く感じられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善を求められた項目については改善に向けての積極的な対応がなされており、加えて、指摘がなかった項目に関しても、自己評価や外部評価を通して、より利用者本位のサービス提供、より良い質の確保を目指した取り組みがなされており、その成果もうかがい知ることができる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員ともに評価を行う意義を理解しており、前回の評価で課題としてあげられている項目をはじめ、それ以外の項目についても検討し、よりホームの質の向上に向けた積極的な姿勢がうかがえる。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政関係、住民、入居者及び家族等をメンバーとし、定期的開催している。今後の運営方法等、より地域に根ざし、また質の向上を目指した討議を行っている。ホームとしても、これらの意見を真摯に受け止め、ホームの意義、存在感という点を含め、地域密着に向けた活動を展開、反映させようと取り組んでいる。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>連絡帳を活用し日々の状況等の報告が行われているとともに、家族の来所も多く、その機会を活用するなどし、定期的かつ個々の状況にあわせた報告がされている。重要事項説明書に行政機関の相談窓口も明記されたり、意見(苦情受付)箱も設置し、相談、苦情担当(窓口)の職員を決め、リスクマネジメント委員会を設置するなどし、対応した結果や寄せられた意見を、運営に反映させていく体制がとられている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者や家族、地域の民生委員等に呼びかけ、見学会を開催したり、同法人の関連施設と協同し、公民館や幼稚園の出かけたり、交流を持つように努めている。今後、利用者が地域とつながりを保ちつつ暮らし続けられるよう、事業所が地域の中の一員として役割を果たすことが重要であることから、運営推進会議などを通して、地域で必要とされる活動や役割りを、より積極的に担っていく取り組みが期待される。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として、地域密着を含めた理念が定められており、ホームもその理念に沿って運営を行っている。その結果、地域との関わりも強く、地域に根付いたホーム作りがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見やすい場所に掲げるなどし、共有する仕組みができおり、職員が理念を十分に把握している。それを基として入居者を第一に考え、支援に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや、行事への参加、保育所との交流会、ボランティアの受け入れなど、地域との付き合いを重要視し、より地域に密着したサービス提供を行うよう、積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義は理解しており、全職員で自己評価を行い、協議・検討を行っている。より利用者本位の質の高いサービス提供を目指しつつ、前回の外部評価で指摘があった事項に関しては、改善に向けて積極的な取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表や家族代表をはじめ地域代表、行政職員等をメンバーとし、2ヶ月に1回定期的に開催している。ただ、会議では、ホームの現況など、報告が主となっており、会議を活かした取り組みとは言い難い。	○	会議を単なる報告や情報交換の場にとどめることなく、会議メンバーと協働して、認知症高齢者だけに限らず、地域において全ての住民が安心して暮らしていける“地域福祉ネットワーク”の構築等、地域包括支援センターも含め、更なる積極的な取り組みが期待される。

島根県 グループホームあゆみの社

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターが、行政の直轄ということもあり、市役所担当者とは密に連絡を取り、運営やサービス内容について協議するなど、気軽に相談できる体制が構築されている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会が多いことから、様子等の報告は、主として家族等の来訪時に行われている。また、電話等による連絡を行うなど、それぞれの状況にあわせ対応している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時や家族会などで、話す時間をできる限り設け、また、利用者個々に担当を決め意見や要望が出しやすい体制を作り、家族からできる限り意見や要望を聞くようにしており、出された意見や要望は、ミーティングで話し合い、ケアや業務に反映するよう取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者、管理者ともに、グループホームの特性を十分に理解しており、法人内での職員異動は行われていない。また、離職者もほとんどなく、異動等による入居者への影響は発生していない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的な法人内研修への参加をはじめ、職場内研修も行っている。また、外部研修へも積極的に参加し、職員個々のスキルアップに向け取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護サービス事業者連絡協議会に加入し、研修等へ積極的に参加するとともに、サービスの質の向上を目指している。また、グループホーム部会を通して職員の交流も行われるなど、ホームの質の向上に向けた積極的な取り組みを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメントにより利用者個々の価値観やライフスタイル等の個人因子は把握され、家族とも相談し、利用者とも会話しながら、家庭的な雰囲気の中で、利用者が安心してホームでの生活に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、利用者を尊重するように全職員が意識統一を図り、利用者主体のゆっくりとした時間、穏やかで暖かい生活が送れるよう、ケア提供がなされている。 また、訪問日のケアや職員のヒアリングでもそのことが窺えた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活歴や性格等の把握がなされ、それぞれの意向に沿った支援がなされている。訪問時にも、昼食の調理やおやつ作り、また、こたつで横になったりと、利用者が思い思いに過ごしている場面が多く確認できた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴や趣味等の把握がなされ、それを基に計画が作成されている。また、随時本人や家族等の要望を聞き、担当者会議、カンファレンス、モニタリング等を行い、それを職員間で共有し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングや3か月に一回の定期的な見直しをはじめ、状況の変化に応じて随時見直しを行うなど現状に即した計画が作成されている。また、毎月開催される職員ミーティングでも、各利用者の状況が確認され、これを見直しに活かす取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設する小規模事業所やサロンの活用をはじめ、本人、家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援に柔軟に対応するなど、事業所の多機能性を十分に活かした支援がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を継続してかかりつけ医とし、密に連絡をとっている。緊急対応をはじめ、往診依頼など入居者がより良い医療を受けられるよう、かかりつけ医と事業所との関係が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にケアについては、個々の希望に沿って対応しており、家族、主治医とも協議し、医療機関の協力を得ながら、利用者が安心して終末期を迎え、過ごせるよう支援・取り組みがなされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の生活歴や性格の把握がなされ、それぞれを尊重した声掛け等がなされている。また、記録等の個人情報についてもしっかりと管理され、損ねることがないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向が十分に把握され、一人ひとりのペースに合わせた利用者主体のケア提供がみられた。職員のヒヤリングからも、職員の都合ではなく利用者のペースに合わせたケアのあり方、柔軟な対応がうかがえた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者ともに食卓を囲み、和やかな雰囲気です事をを行うなど、楽しむことができる支援がなされている。また、準備や後片付けも入居者とともにいき、支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日の入浴や、1日おきなど個々の利用者の希望に合わせて実施されている。時間帯についても、夜間入浴も含めて本人の希望で入浴できる体制が整っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、利用者が経験や知恵を發揮できるよう役割を見出している。また、外出等楽しみごとや気晴らしについても、利用者の希望に沿い支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向を踏まえたドライブ外出、近所への散歩等をはじめ、季節に応じた外出支援も実施されており、外出の機会が多い。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。また、外出傾向者など入居者個々の生活パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームとして避難訓練、消火訓練など定期的に行われているとともに、緊急時の対応など、地域への協力要請も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力に合わせ柔軟に対応し、また、栄養バランスについても、同法人内の栄養士よりアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、木目を基調とした温かさを感じる造りとなっており、使い込まれているテーブル、椅子の設置など、心地よく過ごせる空間作りがなされている。訪問時、利用者それぞれが、共用空間で思い思いに過ごしている風景が確認できた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやこたつの設置をはじめ、趣味用品が置かれるなど、それぞれの状況に合わせた居室作りがなされている。ホームとしても、使い慣れた品の持ち込みにこだわりを持ち、より多くの馴染みの品の持ち込みが行われるよう促しも行っている。		